

元島英三



岩国市
(1899～1984)

元島英三は、東京本郷生まれの作家。大正七年、『文芸倶楽部』に投稿した「心中物語」が採用され、大衆文学作家としてデビュー。大正九年頃より童話や児童文学に方向転換し、小学館の学年誌『小学三年く六年生』に相次いで長編連載小説を執筆。続いて発刊された『小学国史物語・全四巻』は、全国の学校図書館で購読される。また、若い女性対象の雑誌『令女界』を編集、出版。やがて『令女界』ブームが起き、大正期を彩る多くの女性誌に執筆。戦後は、妻の故郷岩国に帰り、社会福祉活動等に尽力し、昭和五十八年藍綬褒章を受章した。心の機微に触れる感性と終生譲らぬヒューマニズムを持ち続けた作家であった。

(元島祥次)

【主な著作】

『小学国史物語・全4巻』(小学館、大正14年)

『西遊記』(ヨウネン社、昭和2年)

『よい子のお話 新日本童話選』(大昌閣、昭和21年)